視神経脊髄炎および多発性硬化症の体性感覚誘発電位に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間: 2022 年 8 月 23 日 ～ 2025 年 3 月 31 日

〔研究課題〕 視神経脊髄炎および多発性硬化症の体性感覚誘発電位に関する後ろ向き研究

〔研究目的〕 視神経脊髄炎（NMOSD）および多発性硬化症（MS）は共に中枢神経系の代表的な自己免疫疾患ですが、病態や臨床症状、画像所見などの特徴の違いが知られています。体性感覚誘発電位（SEP）は、NMOSD や MS の診断や評価にも広く用いられており、画像検査で捕らえられない病変の検出や、疾患重症度の指標としても有用なツールと考えられています。しかしながら、SEP 所見の違いから NMOSD と MS を鑑別できるかどうかについてはこれまで明らかにされておらず、本研究では SEP 所見が NMOSD と MS の鑑別に役立つかどうかを明らかにすることを目的とします。

〔研究意義〕 SEP を応用することにより NMOSD と MS を早期から正しく鑑別でき、適切な治療・予後予測を行えるとすれば、意義が大きいと考えます。

〔対象・研究方法〕 2005 年以降から 2021 年 12 月までの、当科で SEP を行った NMOSD および MS 患者様の臨床情報や SEP 所見を後ろ向きに検討し、集計します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院神経内科

〔個人情報の取り扱い〕 収集したデータは、個人毎に匿名化したデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式を DVD-R に記録し、封かん用封筒に詰め、帝京大学臨床研究センター（以下、「TARC」）事務局に提出します。TARC による保管期間は研究終了から 10 年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARC により適切に破棄されます。また、学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：帝京大学医学部神経内科・助教　神林隆道
研究分担者：帝京大学医学部神経内科・主任教授　園生雅弘
住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院神経内科（03-3964-1211）〔内線 7346〕